

医77-8(17.1)

国立がんセンタープロジェクトに対する
エバリュエーションチーム報告書

昭和52年7月

JICA

国際協力事業団
医療協力部

JICA
122
94
MCF
LIBRARY

JICA LIBRARY

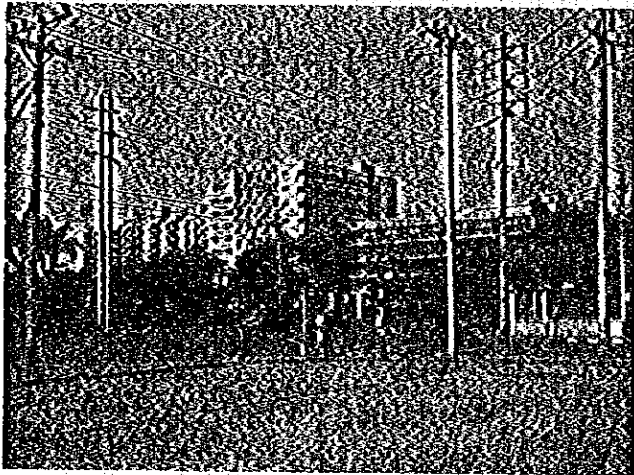


1042180181

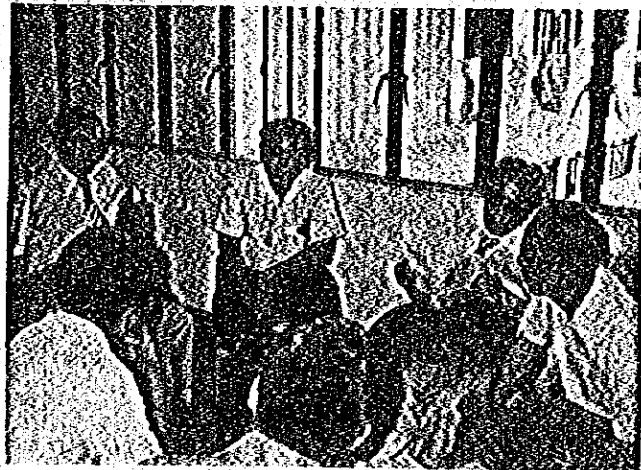
国際協力事業団	
入 日 84.3.21	122
録No. 01116	94
	MCF

目 次

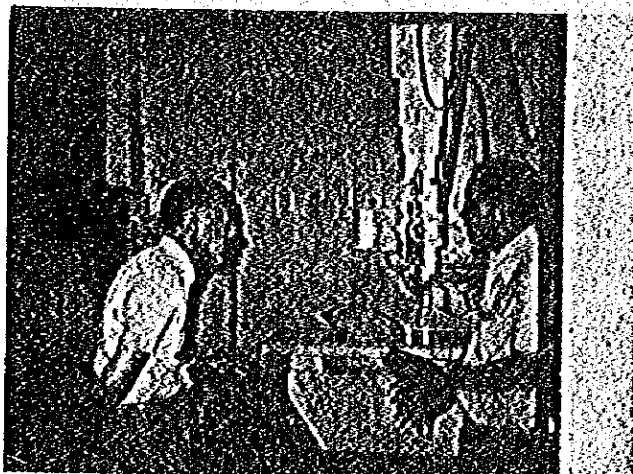
I はしがき	1
II 調査チームの編成	1
III 調査チームの日程表	2
IV 調査チームとタイ国立がんセンターとの会議	3
1. 総 括	3
2. タイ国立がんセンタープロジェクトに関する評価	4
(1) 総 論	4
(2) 各 論	5
V 資料(資料1, 2及び3)	9



タイ国立がんセンター全景



タイ側専門家と打合せ中の
エバリエーションチーム
右より北川、竹田専門家



活動状況を開く北川専門家(左)

I は し が き

わが国のタイ国立がんセンターに関する医療協力は、昭和42年7月5日より7月20日までの間、タイ国に派遣された国立がんセンター相良運営部長を団長とする調査チームとタイ側関係者との具体的な打合せの結果、同年7月19日に取りかわされた第1回合意議事録にもとづいて実施が始まった。

引続いて、昭和43年3月23日の第2回合意議事録、昭和44年11月18日の第3回合意議事録、昭和46年6月18日の第4回合意議事録・昭和47年11月10日の第5回合意議事録及び昭和49年2月26日の第6回合意議事録にもとづいて、協力期間が昭和52年3月31日まで延長された。

このような経緯のもとに、過去約10年間にわたる本プロジェクトの評価を実施することになり、本エバリュエーション調査チームが、昭和52年2月15日から同月24日までタイ国に派遣された。

本報告書はその調査報告書である。

II 調査チームの編成

団 長	竹 田 千 里	群馬県立がんセンター東毛病院長
団 員	北 川 俊 夫	国立がんセンター病院放射線治療部長
団 員	山 本 二 郎	国際協力事業団医療協力部長
団 員	森 川 秀 夫	国際協力事業団医療協力部医療第二課

■ 調査チームの日程表

昭和52年 2月15日(火)	12:25 羽田発 17:25 バンコック着
	19:30 ホテルで打合せ(伊達書記官、訪課JICA事務所員、若林調整員同席)
16日(水)	9:00 日本大使館訪問、JICA事務所で日程等打合せ
	9:30 公使を表敬訪問
	13:15 公衆衛生省プラコーン次官を表敬訪問
	14:00 タイ国立がんセンター(NCI)ソムチャイ所長表敬訪問
17日(木)	9:00 NCI側と打合せ、院内視察
	14:00~16:00 NCIで評価
18日(金)	9:00~12:00 NCIで評価
	14:00~16:00 NCI定例会議出席(竹田団長、北川団員) (山本、森川団員は公衆衛生省医科学局表敬訪問)
	18:00~23:00 評価結果の報告等打合せ
19日(土)	18:00~21:00 評価結果の総括打合せ
20日(日)	休日
21日(月)	10:00 公衆衛生省医務局表敬訪問
	14:00 NCIで協議
	19:30 調査チーム主催パーティー
22日(火)	9:00 NCIで最終協議 午後 日本大使館に最終報告 (森川団員は7:00A.M. 関係者とチャングブリへ出発 県立病院視察、翌23日午後バンコック着)
	23日(水)
24日(木)	11:35 バンコック発 22:00 羽田着

Ⅳ 調査チームとタイ国立がんセンターとの会議

1 総括

調査チームは、昭和52年2月17日、タイ国立がんセンター（NCI）幹部と第1回の会合を持った。調査チームは、現在のNCIの活動状況を見ることによって、本プロジェクトの成績を評価したい旨を告げ、これに対しタイ国側は積極的な協力を約束した。

日本側の質問に応じて、NCI所長は下記のような計画ならびに当面する問題点を列挙した。

実施したい計画 i) 子宮頸がん、乳がんに対するCancer Control Program ii) 肝がん、肺がんの集団検診 iii) NCIにおける治療手段の充実と多様化 iv) 臨床に直結した研究の推進 v) Public Educationの促進 vi) Clinical Laboratory DivisionのCytology SectionのCytology Centerへの昇格。

当面する問題点。 i) NCIに必要な医員数は45名と考えている。これに対して現在任用されているのは22名に過ぎない。 ii) 放射線治療部門における医員充足の困難さ。 iii) Linear Acceleratorのメンテナンスに伴う困難 iv) 供与機材のうち使用不能になっているものがあって、これに対する修理の態勢が十分でないこと。

このあと、NCI全般にわたる合同視察を行った。

午後からは、調査チームの医師3名が分担を定めて各部を詳細に視察し、各部の長と会談して、その活動の範囲・水準ならびに器材の作動状況を把握するよう努力した。このような評価作業は2日間にわたって行われた。

2月21日、NCI幹部と会見、各論的事項を重点にして、わが方の所見を述べた。これに関する先方の意見も十分聴いた。

2月22日、評価の結果を伝え、このプロジェクトを予定どおり昭和52年3月31日で終了させる方向でまとめたこと。及び、そのあと2～3年間のfollow-up協力が行われるであろうと述べた。

これに対して、Somchai 所長は同意し、日本からの今後の協力は器材供与に重点を置いて貰いたいこと、その順位は i) 放射線治療 ii) 放射線診断 iii) 核医学 iv) 臨床検査であることを強調した。日本側もこれに同意見を表明した。

2. タイ国立がんセンタープロジェクトに関する評価

(I) 総論

1) タイ国立がんセンター (NCI) は公衆衛生省医務局に属しており、所長 Dr. Somchai のもとに9のDivisionが開設され活動を行っている。

従来、日本の協力は、主としてEarly Cancer Detection Clinic Division, Clinical Research for cancer Therapy Division 及び Clinical Laboratory Division にその重点がおかれた傾向がある。したがってこの3部門における活動は6ヶ月以前と比較して著しく活潑になってきた。その他の6部門, Administrative Division, Epidemiology and Statistics Division, Public Education Division, Research Division, Training Division, Nursing Division も人手不足を克服しつつ着実な活動を始めている。

このような全般的な活動水準の向上によって、NCIは、いまや活力に満ちていると評しても過言ではあるまい。このような前進をもたらしたものは、基本的にはタイ側の熱意と職員とくに医師の資質の優秀性によるものであろうが、それを助成した本協力プロジェクトの役割はかなり大きいと決論せざるを得ない。

2) 医師の数が22名であることから判るように、人材の層が薄いことは否めない。そのために「診断・治療技術の多様化と充実」と云う命題は、こゝ暫く達成が困難であろう。Somchai 所長は、45名の医師が必要であるという。専門科別の立場から見ると45名でも不足と云うことになろうがNCIでは臓器別に独立した診療体系でなく、放射線治療、手術、化学療法など手段別診療体系をとっているので何とかやっていけることになるらしい。

3) 1976年度の予算は1,772,300 Baht (約176,584,500円)であった。タイ国政府がNCIに配分する予算は年毎に増えている。しかし、これまでは日本からの機材供与を当てにしていたわけであるから、今後の予算はもっと大型でなければならない。このギャップは、当分の間、日本の協力で補う必要があろう。最近NCI予算でかなり大型の機械を購入した事例もあり、頼もしいことである。

4) 供与された器材の大多数はよく作動しており、技術協力の実をあげている。しかし、かなり多数の器材が使用不能の状態にあり、これを補修することは現下の

急務である。

新しい器材供与に関するタイ側の要望は、まだまだ根強いものがある。

5) NCIは、その少数精鋭のスタッフの努力により、またタイ国政府のバックアップもあって、すべての部門が、活動期に入り、着々と成果をあげつつある。いまや独立すべき基礎づくりは終ったと評価してよいであろう。

これは、日本の技術協力があってこそ達成されたのであるから、本プロジェクトは成功であったと評価したい。

6) 今後にのこされた仕事は次のようである。

i) あと2～3年間、少しずつでも器材の供与をつづけること。

ii) Linear Acceleratorのメンテナンスの方策を確立すること。

iii) 使用不能の器機を早急に修理すること。

iv) タイ側の要請に応じて研修員を受入れること。

v) タイ側の要請に応じて少数の専門家を派遣すること。この場合は技術を伝達すべきCounterpartのいることが前提条件となる。NCIの専門医は概して高い技術水準を持っているので、その専門領域における指導は必要としていない。NCIに専門家のいない領域に対し、どのような協力をするかが従来から問題視されてきた。少くとも専門家派遣によって、その技術がNCIにのこされ得るような態勢がつくられていなければならない。この点に関しては、最近NCI側も理解し、医師の派遣について要請しなくなっているようである。ただし、疫学者の派遣は、現時点において最も望ましいことと思われた。

vi) 従来の意味の専門家派遣、医師研修員受入れなどのかわりに、共同研究、情報交換などを目的とした学門的な交流が望ましい。

2) 各論

タイ国立がんセンターの各部門の活動に関する評価は、次の通りである。

1) 行政部門

毎年予算は増加しているが、人件費は、昭和51年10月から昭和52年9月迄の間に予算の約53%を占めている。将来は、人件費の増加に見合った予算が必要であろう。

2) 疫学及び統計部門

患者の登録を行っており、1974年現在で、全国の125の病院のうち96

の病院。つまり、全国の病院のうち76.8%の病院の協力によって患者が登録されている。この協力する病院の比率は年々上っているが、将来は集計方法の検討が必要であろう。

この部門の中のスタッフの中でも、とくに疫学部門の強化が望まれる。

3) 公衆教育部門

がんの早期発見のための各種のパンフレットを作成し、また医師のためのテキストを作製するなど、活発な活動を行っている。

4) がん治療部門

この部門のうち、手術部門では、手術担当医は9名。但しそのうち3名は婦人科医、他の1名は形成外科医である。いわゆる外科医は5名で、手術のほか内視鏡検査（喉頭、気管支、大腸、腹腔）、外来診察、入院患者の主治医役等を行っている。このグループはN C I診療の中核的存在である。手術室は4室、このほかに内視鏡手術室1室がある。新式の上等の手術台は1つだけで、あとの2つは旧式のようなものである。中央サブライ部門では、供与機材はよく作動しており、問題はない。

麻酔部門では麻酔医1名、麻酔看護婦2名で、器械はよく作動している。

化学療法部門は、医師1、看護婦1、看護助手1で実施している。患者数は週に20～30名。疾病の種類としては肺がんが最も多い。

この部門は日本の水準からみると弱体なので、この部門への協力は今後とも要請があれば続けていく必要がある。

5) 研究部門

この部門のうち、現在活発な組織活動を行っているのは、動物部門、組織培養部門及び生物部門であり、放射線物理部門は、技師が大学修士課程で研修中であり、それが終われば活動を始める。

研究は8つのテーマについて着実に進められている。以前は基礎医学的な課題だけであったが、現在では、血清、免疫学的な臨床研究が、しかも全がん症例について行われている。これらの研究はPh.D.の学位を持つ一人によって推進されている。人材の層の薄さは否めない。日本からの専門家派遣が、研究領域を拡大する役割を果たしたことは確実である。

研究活動については、今後、日本、タイ共同研究を主眼とした両国の交流を統

けたいものである。

6) 訓練部門

現在、活潑な活動を行っているのは、細胞検査者に関する部門と、School of Medical Record Librarian である。前者は Medical Technology や Biological Science の Bachelor's Degree を有する人を対象とし12ヶ月間の研修を行い、5年前に開設し現在までに50人の卒業者がある。後者は、2年制の学校であって、Medical Record Librarian の養成を目的としている。

7) 看護部門

この部門は、Nurses 31, Practical Nurses 40, Nurse Aid 20 かななる。

8) 放射線診断部門

診断技術に関しては、十分満足される水準にあり、今後特定のものを除いては技術指導は必要はないと考えられる。ただし、技師の能力はなお十分高くはないことから、follow up の期間を通じて教育することが望ましい。

供与された機器は、現在各検査目的に使用せられている。タイ側も自己の予算によって徐々に充実しようとする意欲が認められ、機器更新の能力も徐々に充実の傾向が認められる。ただし、血管撮影が機材不足のため、まだ行なわれていないので、これに対する考慮が必要である。

9) RI 検査部門

既に供与された機材により、現在がん診療上必要と考えられる検査法の多くは実施されており、その活動性は年間約700例の検査を行っていること及びその約40%が他院からの依頼であることなどから考え、その活動状況は、当病院内において満足されるものであると共に、特定がん診療施設としての周辺病院に対する貢献が大きいことが認められる。

機材の修理は引き続き必要であり、タイ側にも極めて高価なものを除いては更新の能力はあると判断された。

10) 放射線治療部門

放射線治療医獲得の困難な実情から、診断部門の医師が一人代行しつつある現状であるにもかかわらず、一日約40例を越す治療活動は極めて意欲的であると高く評価される。しかし、この治療法のがん臨床面における重要性と今後なお急速

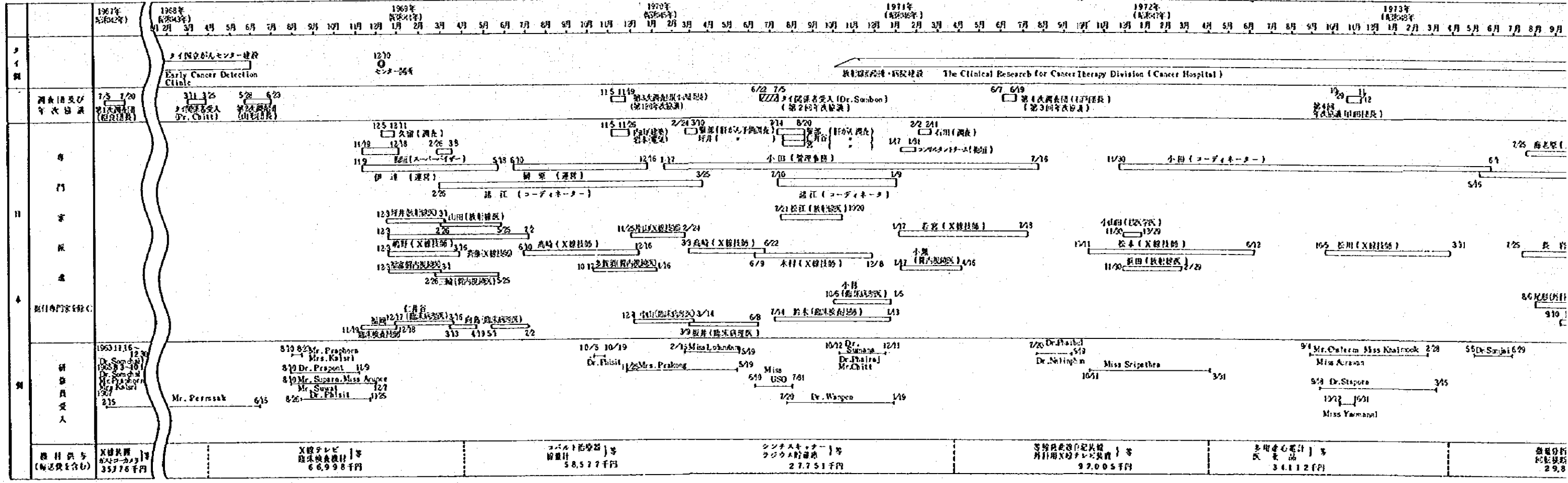
に増加するであろう症例数を考慮した場合、可及的早期に専任の放射線治療医を獲得することが必要である。この問題に関して、タイ側としてはがんセンターの最も重要な放射線治療部門を担当するにふさわしい専門医を時間をかけて探す方針にある。しかし、この部門責任担当者以外の医師も事実上は必要であり、上記専門医獲得以前に可及的速やかに若手層の治療医をやとすべき必要性を示唆し、このような修練過程にある医師の教育に関しては、日本側は可能な限りの努力を払う事を約束した。なおこの部門において問題となってきたリニアック照射装置の多発する故障に対する対策は、日本側及びタイ側双方において協議の上努力する事になった。

4) 臨床検査部門

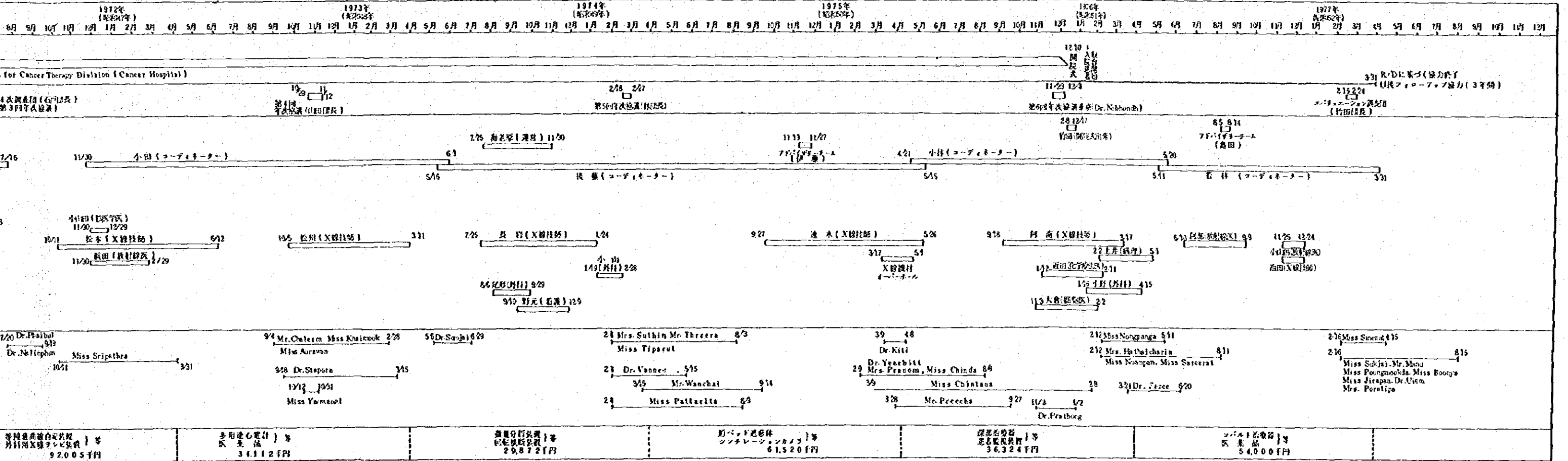
この部門の活動状況を知るため、日本側によってあらかじめ用意された基本的検査事項105項目について調査の結果、その中81種の検査が現在可能であることから、その機能はほぼ満足されるものと判断された。ただし、この調査結果から、臨床病理学者を獲得することにより、その機能になお一層の充実が期待されることも判明したので、この旨を伝え、タイ側もこれを了解した。

供与機材に関しては、その大多数のものは現在可動中であり、故障その他の問題点を残す数種の機器に関しては、可及的早期にこれを解決することを約束した。なお、タイ側においても、この部門における機材は自己の予算により既に数多く購入使用しつつあり、今後限られたものを除いては、日本側が更新、新規購入の必要性はないものと考えられた。

資料1 プロジェクト実施状況一覽表



資料1 プロジェクト実施状況一覧表



資料 2

派遣専門家一覧表（調査団機材据付専門家を含む）

番号	専門家氏名	業 務	派 遣 期 間	赴 任 時 所 属 先
1	相 良 真 直	医 療 調 査	15日 42.7.5 ~ 42.7.20	国立がんセンター 運営部長
2	能 美 光 房	"	"	厚生省医務局国立病院課課長補佐
3	小 野 英 男	" (調 整)	"	海外技術協力事業団医療協力室
4	山 形 操 六	" (運 営)	16日 43.5.28 ~ 43.6.12	国立がんセンター 運営部長
5	崎 田 隆 夫	" (胃内視鏡)	"	" 外科部長
6	木 村 喜代次	" (臨床検査)	"	" 臨床検査部長
7	梅 垣 洋一郎	" (放射線)	15日 43.6.9 ~ 43.6.23	" 放射線診療部長
8	尾 形 利 郎	" (外 科)	"	" 健康相談室医長
9	小 野 英 男	" (調 整)	19日 43.5.28 ~ 43.6.15	海外技術協力事業団医療協力室
10	山 口 善 善	機 材 据 付	2ヵ月13日 43.6.18 ~ 43.8.30	東芝社
11	後 藤 守 正	"	"	相島洋
12	内 藤 昭 治	"	2ヵ月19日 43.7.2 ~ 43.8.20	日立社
13	佐 藤 東 一	"	2ヵ月14日 43.11.19 ~ 44.1.31	相小西六
14	佐 藤 繁 繁	"	1ヵ月 43.11.27 ~ 43.12.26	東芝社
15	山 口 善 善	"	"	"
16	梅 垣 洋一郎	スーパバイザー	" 43.11.19 ~ 43.12.18	国立がんセンター 放射線診療部長
17	伊 達 和 男	運 営	6ヵ月 43.11.19 ~ 44.5.18	" 運営部企画室長
18	福 岡 幸 基	臨 床 検 査	1ヵ月 43.11.19 ~ 43.12.18	" 臨床検査技師長
19	坪 井 栄 孝	放 射 線 医	3ヵ月 43.12.3 ~ 44.3.1	" 第1病棟医長
20	福 富 久 之	胃 内 視 鏡 医	"	" 内視鏡医
21	嶋 野 忠 俊	X 線 技 師	7ヵ月 43.12.3 ~ 44.7.2	" X線技師
22	斎 藤 裕 久	"	3.5ヵ月 43.12.3 ~ 44.3.16	"
23	仁 井 谷 久 鶴	臨 床 病 理 医 (生 化 学)	3ヵ月 43.12.17 ~ 44.3.16	" 臨床検査部医長
24	久 留 勝 勝	医 療 調 査	7日 43.12.5 ~ 43.12.11	" 総 長
25	梅 垣 洋一郎	スーパバイザー	11日 44.2.26 ~ 44.3.8	国立がんセンター 放射線診療部長
26	山 田 達 哉	放 射 線 医	3ヵ月 44.2.26 ~ 44.5.25	" 第1放射線科医長
27	三 輪 剛 剛	胃 内 視 鏡 医	"	" 内 科
28	諸 江 邦 利	病 院 管 理 事 務 (調 整)	1年1ヵ月 44.2.26 ~ 45.3.25	" 運営部企画室
29	向 島 達 達	臨 床 病 理 医	3ヵ月21日 44.3.13 ~ 44.7.2	" 臨床検査部
30	榎 原 久 雄	運 営	6ヵ月 44.6.10 ~ 44.12.16	" 運営総務部長

番 号	専 門 家 氏 名	業 務	派 遣 期 間	赴 任 時 所 属 先
31	高 崎 克 彦	X 線 技 師	6 月 44. 6.10 ~ 44.12.16	国立がんセンター X線技師
32	佐 藤 守 正	機 材 据 付	1 月 15 日 44. 8.13 ~ 44.10. 2	㈱ 島津
33	藤 原 宏 美	X 線 テレビ 修理	2 0 日 44. 9.12 ~ 44.10. 1	東芝 ㈱
34	多 賀 須 幸 男	胃 内 視 鏡 医	3 月 44.10.17 ~ 45. 1.16	国立がんセンター 外来部消化器科医長
35	小 西 宏	医 療 調 査	5 日 44.11.15 ~ 44.11.19	" 運営部長
36	梅 垣 洋 一 郎	" (スーパーバイザー)	" "	" 放射線診療部長
37	伊 藤 一 二	" (外 科)	" "	" 外科部長
38	小 野 美 男	" (調 整)	" "	海外技術協力事業団医療協力室
39	内 山 孝 孝	病 院 設 計 (建 築)	15 日 44.11. 5 ~ 44.11.19	厚生省医務局整備課 課長補佐
40	岩 本 五 郎	" (電 気)	" "	" 主任
41	片 山 二 三 夫	X 線 技 師	3 月 44.11.25 ~ 45. 2.24	国立がんセンター 放射線技師長
42	中 山 竜 竜	臨 床 病 理 医	" 44.12. 4 ~ 45. 3.14	" 臨床検査部
43	桶 田 治 三	機 材 据 付	22 日 44.12. 4 ~ 44.12.25	丸幸 ㈱
44	小 田 深 深	病 院 管 理 事 務	1 年 6 月 45. 1.17 ~ 46. 7.16	国立がんセンター 運営部企画室
45	服 部 信 信	肝 癌 医 (内 科)	15 日 45. 2.24 ~ 45. 3.10	" 第8病棟医長
46	坪 井 栄 孝	" (放 射 線)	" "	" 第1病棟医長
47	高 崎 克 彦	X 線 技 師	3 月 20 日 45. 3. 3 ~ 45. 6.22	" X線技師
48	坂 井 保 信	臨 床 病 理 医	3 月 45. 3. 9 ~ 45. 6. 8	" 血液検査医長
49	木 村 行 俊	X 線 技 師	6 月 45. 6. 9 ~ 45.12. 8	" X線技師
50	諸 江 邦 利	調 整	" 45. 7.10 ~ 46. 1. 9	" 運営部企画室
51	鈴 木 節 節	臨 床 検 査 技 師	" 45. 7.14 ~ 46. 1.13	北里大学 副助手
52	服 部 信 信	肝 癌 調 査 (内 科 医)	1 月 7 日 45. 7.14 ~ 45. 8.20	国立がんセンター 第8病棟医長
53	仁 井 谷 久 暢	肝 癌 調 査 (生 化 学 医)	1 月 45. 7.21 ~ 45. 8.20	" 生化学室医長
54	宮 達 彦	" (生 化 学 技 師)	" "	" 臨床検査部技師
55	松 江 寛 人	放 射 線 医	3 月 45. 7.21 ~ 45.10.20	" 放射線医師
56	小 林 利 次	臨 床 病 理 医	" 45.10. 6 ~ 46. 1. 5	" 非常勤職員
57	小 黒 八 七 郎	胃 内 視 鏡 医	" 46. 1.17 ~ 46. 4.16	" 内視鏡消化器科医長
58	若 宮 祐 祐	X 線 技 師	6 月 46. 1.17 ~ 46. 7.18	" X線技師
59	梅 垣 洋 一 郎	コンサルタントチーム (スーパーバイザー)	15 日 46. 1.17 ~ 46. 1.31	" 放射線診療部長
60	伊 藤 一 二	" (外 科)	" "	" 病棟部長
61	松 本 健 健	" (X 線 技 師)	" "	" X線技師
62	浜 賢 吉	" (外 科 機 材)	" "	浜医科工業

番 号	専 門 家 氏 名	業 務	派 遣 期 間	赴 任 時 所 属 先
63	前 原 英 保	コンサルタントチーム (放射線機材)	15日 46.1.17 ~ 46.1.31	日本電気
64	工 藤 好 嗣	"	"	東芝 (株)
65	中 西 重 信	機 材 据 付	23日 46.2.19 ~ 46.3.11	精工製作所
66	石 川 七 郎	医 療 調 査	10日 46.2.2 ~ 46.2.11	国立がんセンター 病院長
67	石 戸 程 真	医 療 調 査 (運 営)	13日 46.6.7 ~ 46.6.19	" 運営部長
68	伊 藤 一 二	" (外 科)	"	" 外来部長
69	仁 井 谷 久 暢	" (生 化 学)	"	" 生化学検査医長
70	北 川 俊 夫	" (放 射 線)	"	" 放射線診療部長
71	新 谷 鉄 郎	" (公 衆 衛 生)	"	厚生省医務局 医事課長
72	堀 田 吉 男	" (調 整)	"	海外技術協力事業団医務部
73	松 本 健	X 線 技 師	8ヵ月 46.10.11 ~ 47.6.12	国立がんセンター 放射線調整部長
74	小 山 田 日 吉 丸	核 医 学 医	1ヵ月 46.1.130 ~ 46.1.2.29	" 第3放射線科医長
75	浜 田 政 彦	放 射 線 治 療 医	3ヵ月 46.1.130 ~ 47.2.29	" 第2 " "
76	小 田 深 潔	病 院 管 理 事 務 (調 整)	1年6ヵ月 46.1.130 ~ 48.6.1	" 運営部企画室
77	前 原 英 保	機 材 据 付 調 査	15日 46.5.14 ~ 46.5.28	日本電気 (株)
78	前 原 英 保	"	2ヵ月 46.1.2.28 ~ 47.2.27	"
89	中 山 巖 幸	"	1ヵ月 46.1.1.19 ~ 46.1.2.28	東芝 (株)
80	南 川 和 幸	"	" 46.1.1.30 ~ 46.1.2.29	"
81	佐 藤 東 一	機 材 据 付	14日 46.6.17 ~ 46.7.1	小西六 (株)
82	新 城 修 一	"	1ヵ月 46.1.1.14 ~ 46.1.2.13	東芝 (株)
83	浜 松 靖 雄	"	"	"
84	松 川 叔 作	X 線 技 師	5ヵ月28日 47.10.5 ~ 48.3.31	国立がんセンター 放射線技師
85	山 田 昇 昇	医 療 調 査 (運 営)	15日 47.10.29 ~ 47.1.1.12	" 運営部次長
86	伊 藤 一 二	" (外 科)	"	" 病棟部長
87	北 川 俊 夫	" (放 射 線)	"	" 放射線診療部長
88	福 老 原 進	" (運 営 部)	" 47.12.5 ~ 47.12.19	" 企画室長
89	阿 部 駿 介	機 材 据 付	3ヵ月8日 47.3.21 ~ 47.6.28	日本電気 (株)
90	松 藤 久 憲	"	20日 47.3.21 ~ 47.4.9	日本電気 (株)
91	石 井 宏 孝	"	20日	"
92	栗 原 孝 明	"	2ヵ月 47.3.21 ~ 47.5.20	日本電気 (株)
93	岡 本 明 雄	"	21日 47.1.28 ~ 47.2.17	オルガノ (株)
94	中 本 芳 雄	"	"	ダイキン工業 (株)

番 号	専 門 家 氏 名	業 務	派 遣 期 間	赴 任 時 所 属 先
95	後 藤 昭 夫	業 務 調 整	2年 48. 5.16 ~ 50. 5.15	国立がんセンター 運営部企画室
96	海 老 原 進	病院管理運営	4ヵ月6日 48. 7.25 ~ 48.11.30	" " 企画室長
97	長 谷 清 之	X 線 技 師	6ヵ月 48. 7.25 ~ 49. 1.24	" " 放射線技師
98	杉 山 覚 三	機 材 据 付 調 査	15日 48. 7.31 ~ 48. 8.14	東海汽機 (株)
99	佐 藤 四 郎	" "	" "	ウヰノ医機 (株)
100	尾 形 利 郎	外 科	1.5ヵ月 48. 8. 6 ~ 48. 9.29	国立がんセンター 第3病棟医長
101	野 元 道 子	看 護 婦	3ヵ月 48. 9.10 ~ 48.12. 9	" " 手術室主任看護婦
102	佐 藤 四 郎	機 材 据 付	20日 48. 9.20 ~ 48.10.10	ウヰノ医機 (株)
103	米 山 春 夫	" "	" "	" "
104	池 上 実	" "	" "	池上製作所 (株)
105	東 原 覚	" "	" "	大協器械 (株)
106	松 浦 茂	" "	" "	東海汽機 (株)
107	小 山 靖 夫	外 科 医	1ヵ月10日 49. 1.19 ~ 49. 2.28	国立がんセンター 第5病棟医長
108	林 弘	年 次 協 議	10日 49. 2.18 ~ 49. 2.27	" " 運営部長
109	伊 藤 一 二	" "	" "	" " 病棟部長
110	北 川 俊 夫	" "	" "	" " 放射線診療部長
111	石 崎 光 夫	" "	" "	海外技術協力事業団 医療協力部
112	遠 木 昭 雄	X 線 技 師	8ヵ月 49. 9.27 ~ 50. 5.26	国立がんセンター 放射線部
113	伊 藤 一 二	アドバイザーチーム	15日 49.11.13 ~ 49.11.27	" " 病棟部長
114	仁 井 谷 久 暢	" "	" "	" " 臨床検査部長
115	山 田 真 治	" "	" "	" " 会計課長
116	三 浦 昭 治	" "	" "	" " 電気手
117	天 野 孝 治	オーバーホール	21日 50. 3.17 ~ 50. 4. 6	日立メディコ (株)
118	千 葉 晴 範	" "	" "	" "
119	祖 父 江 勝 安	" "	" "	東芝メディカル (株)
120	大 久 正	" "	" "	" "
121	余 話 正 宏	" "	" 50. 4.11 ~ 50. 5. 1	(株) 島津製作所
122	三 浦 昭 治	" "	" "	国立がんセンター 電気手
123	小 林 桂 雄	業 務 調 整	1年1ヵ月 50. 4.21 ~ 51. 5.20	" " 運営部企画室
124	米 田 正 治	ライナック修理	29日 50. 9. 9 ~ 50.10. 7	日本電気 (株)
125	早 船 有 男	コバルト修理	5日 50. 9. 9 ~ 50. 9.13	東芝メディカル
126	阿 南 充 洋	X 線 技 師	6ヵ月 50. 9.18 ~ 51. 3.17	国立がんセンター

番号	専門家氏名	業 務	休 遣 期 間	赴 任 時 所 属 先	
127	大 倉 久 直	細 胞 医	3カ月	50.11.3 ~ 51.2.2	国立がんセンター 臨床検査部
128	近 田 千 尋	化学療法医	"	50.11.12 ~ 51.2.11	" 内科医
129	竹 田 千 里	開院式出席	10日	50.12.8 ~ 50.12.17	" 手術部長
130	小 野 勇	外 科	3カ月	51.1.16 ~ 51.4.15	" 病棟部
131	上 井 良 夫	細胞病理医	"	51.2.2 ~ 51.5.1	" 臨床検査部
132	余 語 正 宏	機材担当	4日	51.3.31 ~ 51.5.10	特 島津製作所
133	若 林 伸 夫	業務調整	10カ月	51.5.11 ~ 52.3.31	国立がんセンター 運営部企画室
134	阿 部 光 延	放射線治療医	3カ月	51.6.10 ~ 51.9.9	" 放射線治療部
135	鳥 田 晋	アドバイザーチーム	9日	51.8.5 ~ 51.8.14	" 運営部長
136	竹 田 千 里	"	"	"	" 手術部長
137	田 中 喜代史	"	"	"	厚生省公衆衛生局結核成人病課
138	青 木 彰 男	"	"	"	国立がんセンター 運営部企画室係長
139	小山田 日吉丸	放射線診断医	1カ月	51.11.25 ~ 51.12.24	" 放射線診断部
140	池 田 文 男	X線技師	"	"	" "
141	真 重 敏 幸	機材担当	10日	51.12.1 ~ 51.12.10	千代田保安用品(株)
142	高 橋 猛	"	8日	51.12.1 ~ 51.12.8	"
143	竹 田 千 里	エバリュエーション調査団	10日	52.2.15 ~ 52.2.24	群馬県立東毛病院院長
144	北 川 俊 夫	"	"	"	国立がんセンター 放射線診療部長
145	山 本 二 郎	"	"	"	国際協力事業団 医療協力部長
146	森 川 秀 夫	" (調整)	"	"	" 医療協力部

資料3 受入研修員リスト

	NAME	PERIOD OF TRAINING	FIELD OF TRAINING	PLACE OF TRAINING
1	Dr. Somchai Sombooncharoen	Nov. 16, '63 - Dec. 30, '63	cancer research & hospital management	National Cancer Center
2	"	Aug. 3, '65 - Oct. 1, '65	function of cancer institute	"
3	Mr. Praphorn Charuchanda	"	"	"
4	Mrs. Kaisri Junsin	"	"	"
5	Mr. Permsak Charbhanom	Feb. 15, '67 - June 15, '68	management of cancer hospital	National Cancer Center & Aichi Cancer Center
6	Mr. Chitt Hemachuda	Mar. 11, '68 - Mar. 25, '68	discussion on the cooperation	"
7	Dr. Somchai Sombooncharoen	"	"	"
8	Dr. Tongpoon Watanavit	"	"	"
9	Mr. Permsak Charbhanom	"	"	"
10	Mr. Praphorn Charchanor	Aug. 10, '68 - Aug. 25, '68	designing cancer hospital	The Ministry of Health & Welfare
11	Mrs. Kaisri Junsin	"	"	"
12	Dr. Prasont Piyaath	Aug. 10, '68 - Nov. 9, '68	clinical pathology	National Cancer Center
13	Mr. Suparn Borisuit	Aug. 10, '68 - Dec. 7, '68	laboratory technology	"
14	Mr. Suwat Dangphibulsitkul	"	x-ray technology	"

	NAME	PERIOD OF TRAINING	FIELD OF TRAINING	PLACE OF TRAINING
15	Dr. Phisit Pharthamachida	Aug. 26, '68 - Nov. 25, '68	radiology	National Cancer Center
16	Miss Ananee Chotromapat	Aug. 10, '68 - Dec. 7, '68	x-ray technology	"
17	Dr. Phisit Pharthamachida	Oct. 5, '69 - Oct. 19, '69	radiology	"
18	Mrs. Prakong Rungkasiri	Nov. 25, '69 - May 19, '70	nursing	"
19	Miss Ladarutana Phutaprasert	Feb. 15, '70 - May 19, '70	"	"
20	Dr. Somboon Phongaksara	June 22, '70 - Jul. 5, '70	annual meeting	O.T.C.A. & National Cancer Center
21	Dr. Komol Pengsitong	"	"	"
22	Dr. Somchai Sombooncharoen	"	"	"
23	Mr. Permsak Churbhanom	"	"	"
24	Miss Vanna Kanjavatee	"	"	"
25	Dr. Sumano Noonpachdee	Oct. 12, '70 - Dec. 11, '70	cancer statistics & epidemiology	National Cancer Center
26	Dr. Phairaj Athanavanich	"	microbiology	"
27	Mr. Chitt Angkeeros	Oct. 12, '70 - Dec. 11, '70	electronic instruments	National Cancer Center
28	Miss Usa Sangarist	June 10, '70 - July 31, '70	radiation technology	"
29	Dr. Wanpen Benjachaj	July 20, '70 - Jan. 19, '72	radiation diagnosis	"
30	Dr. Phaijul Sangobwaechar	July 20, '71 - Sept. 19, '72	nuclear medicine	"

	NAME	PERIOD OF TRAINING	FIELD OF TRAINING	PLACE OF TRAINING
31	Dr. Nalinphun Kangsumrit	July 20, '71 - July 19, '72	chemotherapy	National Cancer Center
32	Miss Sripatha Sirirajabandhu	Oct. 11, '71 - Mar. 31, '72	nuclear medicine	"
33	Mr. Chalem Chirakukhantar	Sept. 4, '72 - Feb. 28, '73	x-ray therapy technology	"
34	Miss Khaimook Somboonna	"	cytology examination technology	"
35	Miss Auraswan Meknaha	"	blood & pathology examination technology	"
36	Dr. Stapon Letlanuntakit	Sept. 18, '72 - Mar. 15, '73	anesthesiology	"
37	Miss Yaowarnal Pattarapanu	Oct. 12, '72 - Oct. 31, '72	medical case work	"
38	Dr. Somjai Charnviset	May 6, '73 - Jun. 29, '73	radiation diagnosis	"
39	Mrs. Surhin Chaiyakit	Feb. 4, '74 - Aug. 3, '74	general supply nursing	"
40	Mr. Threera Jiranantangorn	"	x-ray diagnosis technology	"
41	Miss Tiparut Arunreck	Feb. 4, '74 - Aug. 3, '74	surgical nursing	"
42	Dr. Vannee Dhippayom	Feb. 4, '74 - May 15, '74	cancer epidemiology & statistics	"
43	Mr. Wanchai Pengchit	Mar. 15, '74 - Sept. 14, '74	x-ray therapy technology	"
44	Miss Pattarita Reabhummang	Feb. 4, '74 - Aug. 3, '74	cytodiagnosis technology	"
45	Dr. Kiti Chindavijak	Mar. 9, '75 - Apr. 8, '75	surgery	"
46	Mrs. Pranom Pinkhaokhum	Feb. 9, '75 - Aug. 8, '75	nursing	"

	NAME	PERIOD OF TRAINING	FIELD OF TRAINING	PLACE OF TRAINING
47	Miss Chintana Nivatapan	Mar. 9, '75 - Feb. 8, '76	x-ray therapy technology	National Cancer Center
48	Miss Chinda Boonsumpankit	Feb. 9, '75 - Aug. 8, '75	microbiology	"
49	Dr. Yenchitt Thongsomboon	"	cancer epidemiology & statistics	"
50	Mr. Preecha Jermekit Aree	Mar. 28, '75 - Sept. 27, '75	x-ray diagnostic technology	"
51	Dr. Prathuang Angkaew	Nov. 3, '75 - Jan. 2, '76	radiotherapy	"
52	Dr. Nibhondh Suwathana	Nov. 23, '75 - Dec. 4, '75	annual meeting	J.I.C.A. & National Cancer Center
53	Dr. Somchai Sombooncharoen	"	"	"
54	Mr. Permsak Charathanom	"	"	"
55	Mrs. Oramol Vajragupta	Nov. 23, '75 - Dec. 4, '75	annual meeting	"
56	Miss Nongpanga Patthamasukon	Feb. 12, '76 - May 11, '76	cancer library	National Cancer Center
57	Mrs. Hathacharin Kamukamakul	Feb. 12, '76 - Aug. 11, '76	nursing of cancer ward	"
58	Miss Nuanpan Saikonda	"	cytodiagnosis technology	"
59	Miss Sareerat Kanwichaporn	"	microscopy & hematology	"
60	Dr. Seree Pokemseree	Mar. 21, '76 - June 20, '76	oral cavity	"
61	Miss Sinenat Sentipong	Feb. 16, '77 - Apr. 15, '77	cancer registration & hospital statistics	"
62	Miss Sukjai Suwanarnas	Feb. 16, '77 - Aug. 15, '77	nuclear medicine technology	"

	NAME	PERIOD OF TRAINING	FIELD OF TRAINING	PLACE OF TRAINING
63	Mr. Manu Thunyakaset	Feb. 16, '77 - Aug. 15, '77	histopathological technology	National Cancer Center
64	Miss Pongmookda Yayupark	"	radio therapy	"
65	Miss Boonya Thipayaboonthong	"	radio diagnosis	"
66	Miss Jirapan Soonthareakanonth	"	inpatient nurse	"
67	Dr. Uiem Wimmutsunthorn	"	endoscopy	"
68	Mrs. Pornupa Picha	"	tissue culture technology for cancer research	"

資料5 機材供与額年度別一覧表(含輸送費)

昭和42年度	35,776 (千円)	X線装置, ガストロ・カメラ等
昭和43年度	66,998	X線テレビ, 臨床検査機材等
昭和44年度	58,577	コバルト治療器, 線量計等
昭和45年度	27,751	シンチスキャナー, ラジウム貯蔵庫等
昭和46年度	92,005	等線量曲線自記装置, 外科用X線テレビ装置等
昭和47年度	34,112	多用途心電計, 医薬品等
昭和48年度	29,872	微量分析装置, 回転横断装置等
昭和49年度	61,520	鉛ベッド遮蔽体, シンチレーション・カメラ等
昭和50年度	36,324	深部治療器, 患者監視装置等
昭和51年度	54,000	コバルト治療器, 医薬品等
計	496,935千円	

